

新鞆田舎物語初編卷之上  
十返舎一九作歌川豊國画

空俊蔭卷

紅英堂上梓



しんげんかぜをたぐりてかきあはせしるをうら  
まらふひききたるらんかきあはせしるをうら  
こころのなつめりつるまはるよ六月中の十日の初め  
書ふまはるのなつめりつるまはるよ





新島田

物舍  
大釋大佛

陽齋  
九作

紅英堂梓

黨寺

初編下

真如多寶城

山城建仁寺

南都東大寺

因成縣監材

並江三井

東福新寺

武藏比企郡慈光寺

山城東福寺

應雲外題

豊國

大

阿彌陀佛



因答  
物語

元作

見秀通



一編下

筑紫大宰府

京白川法勝寺九重塔



南都東大寺

十返舎一九作  
雄齋國輝画

豆列玉扇巻虎

葛吉板

大敬



山城西寺

新轍田舎物語

三編上

山城貴山

遠江秋葉山

應慶外

曲

十

大敬

新田 一 貞



俊彦卷

俊彦女擬  
月草

十返舎一九作  
一雄齋國輝画

紅英堂梓

高んうほ月

さき

まのり

第三編  
卷下



十返舎一九

新鞍田舎物語初編自序  
 管子權修篇小曰一年計莫如樹穀書房紅英堂曰近年の合巻八編敷を  
 増小志りとてねんさまを千町方町の續物田舎の名ふら源氏ハハを伊勢小竹  
 取落窪んと年々作合似されども空を例の合巻小と一九が畑ふの種を播き  
 殆當惑せり。雖然作者ハ作をあるは百姓小異あるは春筆を耕し秋新米の  
 賣出。荒小田の助書小趣向の種を先あら。今を昔小翻案敷小馬把  
 の無理牽強み左之右之耕つ。繪割の田面筆工を植つけるが五月夫女小  
 あらで老人が業のほ他の古畑穿鑿してものが田引水仕事。當外ハ秋生の  
 出來次第ちやこ小作の包管初編四反の上田下田川汐急ぐ葛飾早稻。  
 二編ハ追てと晩稻小す。實入のすれを専一小引書の培淤を小をもす。碓の摺仕  
 立飾儀の袋入何吳角吳と注文書を手形の小認て地頭小齊書肆一草稿の  
 御年貢納升目のされぬ二十張藏入も古豊饒の吉例祝ふて此年の稿を成ぬ

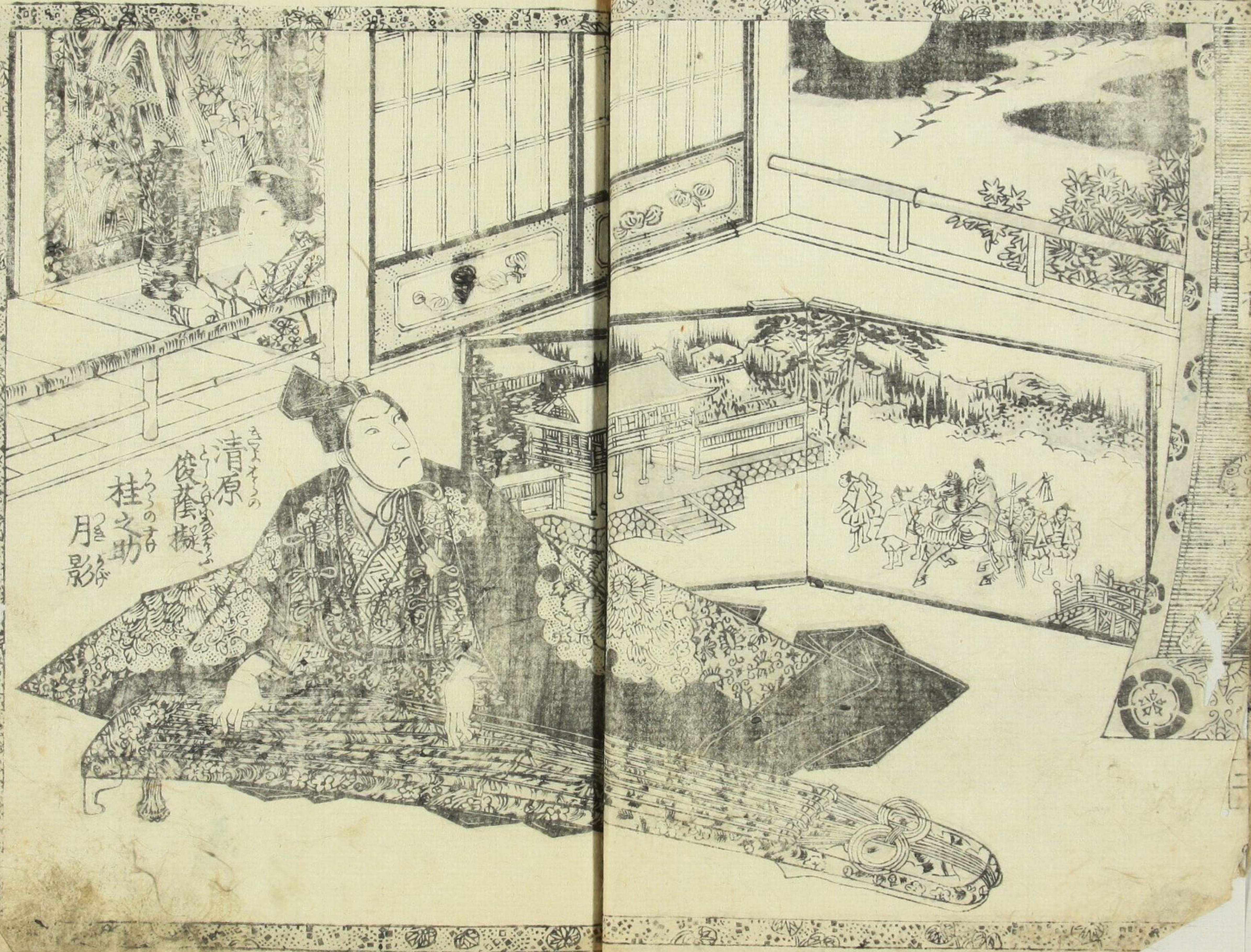


若小君擬 音川勝元四男

稚子之助兼正

新編

新又刀



清原  
俊蔭擬  
桂之助  
月影



波斯國阿脩羅



筑波山大夫  
二岑



三世  
元木綱

筑波の住  
筑波の  
山も  
ひら  
うら  
うら  
うら  
うら

摘新華年歴箋

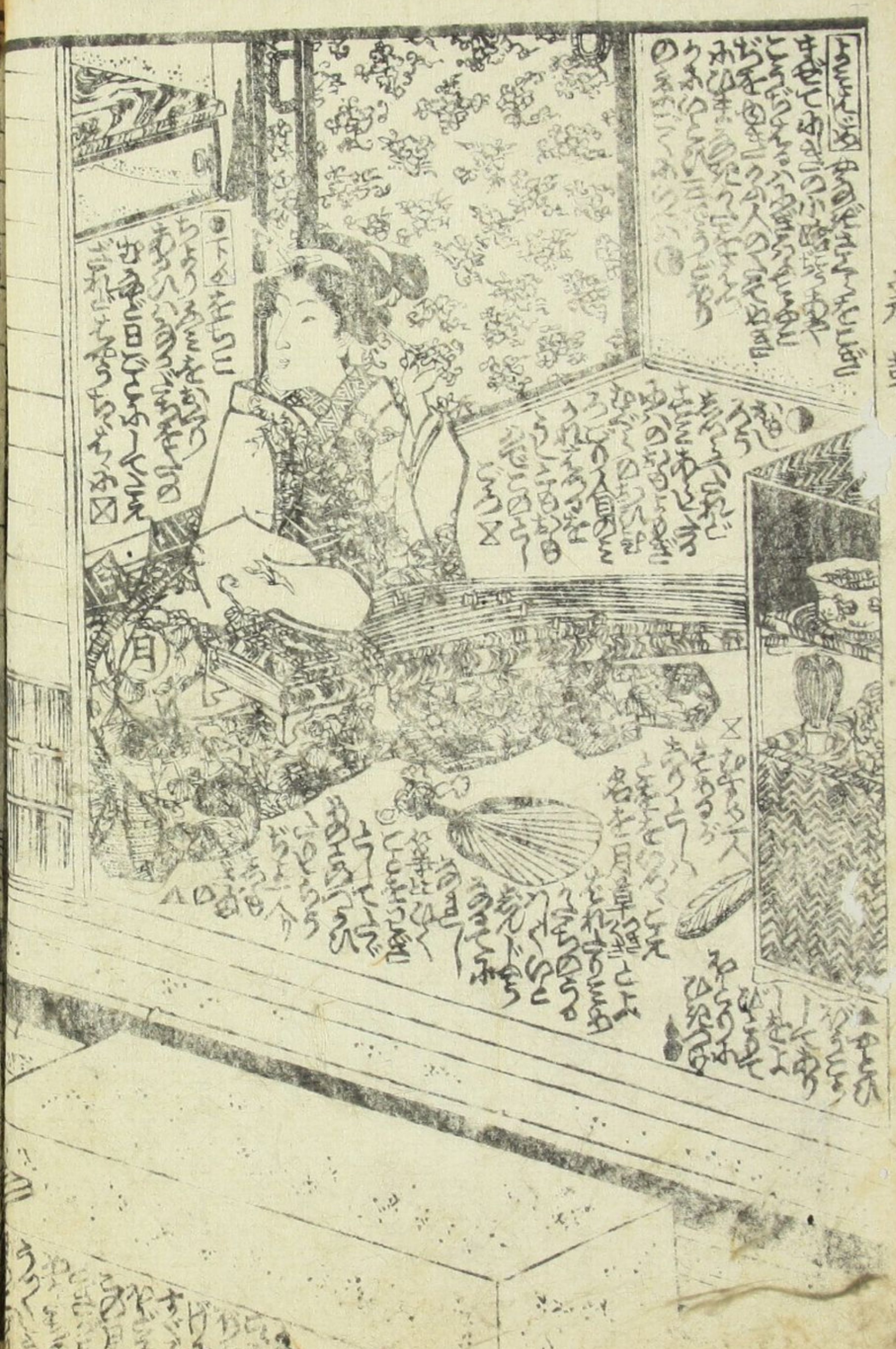
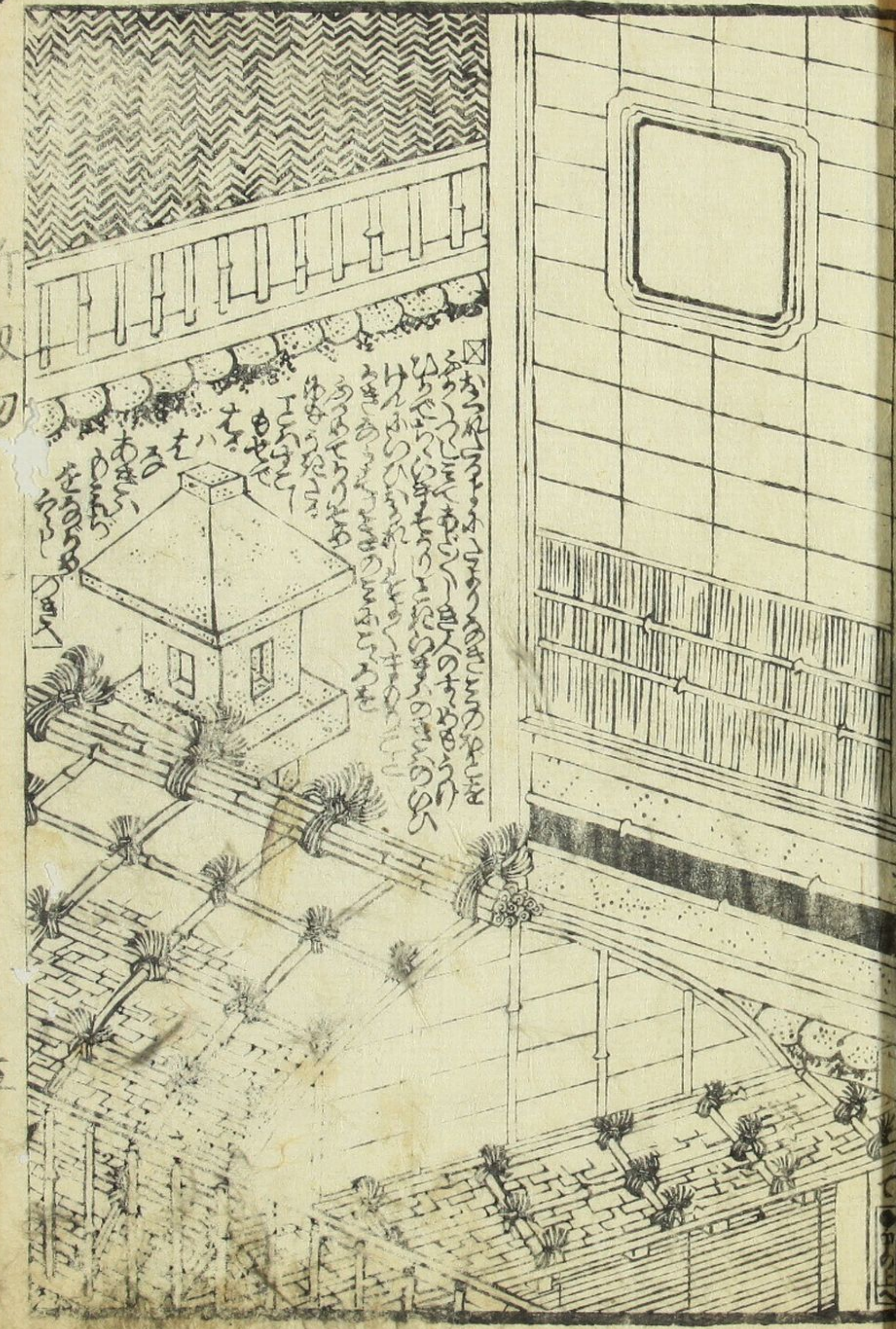
この元巻下巻のこころよ  
これと年歴のあやをわらう  
摘要とくわいしるべき大意を  
のせし役人うたが合せられ  
但し七編八後薩の巻を前後

<p>元 法永月終 らまる</p>	<p>月終 十六歳まで らまる</p>	<p>永守 月終の母 去れん 勝元生</p>	<p>月終の 父死</p>	<p>月終二十九歳 少て帰於 北小路御所</p>
<p>宝徳 二月あつらふ 月終妻死 ついで月終死 八月音川橋元 加茂社に祀る</p>	<p>月章一子生 去れん推子 月章の ゆゑに</p>	<p>秋のころ 野守 死</p>	<p>月章一子 ゆゑに これ住</p>	<p>推子之衣 新敷のすけ 共</p>
<p>二 八月音川橋元 加茂社に祀る</p>	<p>三 月章の ゆゑに</p>	<p>二 野守 死</p>	<p>五 月終の 父死</p>	<p>七 將軍義教 北小路御所</p>

實事を以て年歴を正しうす  
近頃これよりきりきりするものあり  
それらに隨ひてこれこそ却て  
後二ありよりてこれこそ却て  
彼を義政一人に兼さる筑波山大夫  
の名に如茂の社の在言を  
空ふあらぬ筋めこれ  
意の用心あり

國讓 卷小云八月十日国也  
義政公  
東山  
相





新華

うららかに  
あそびた  
るるるる



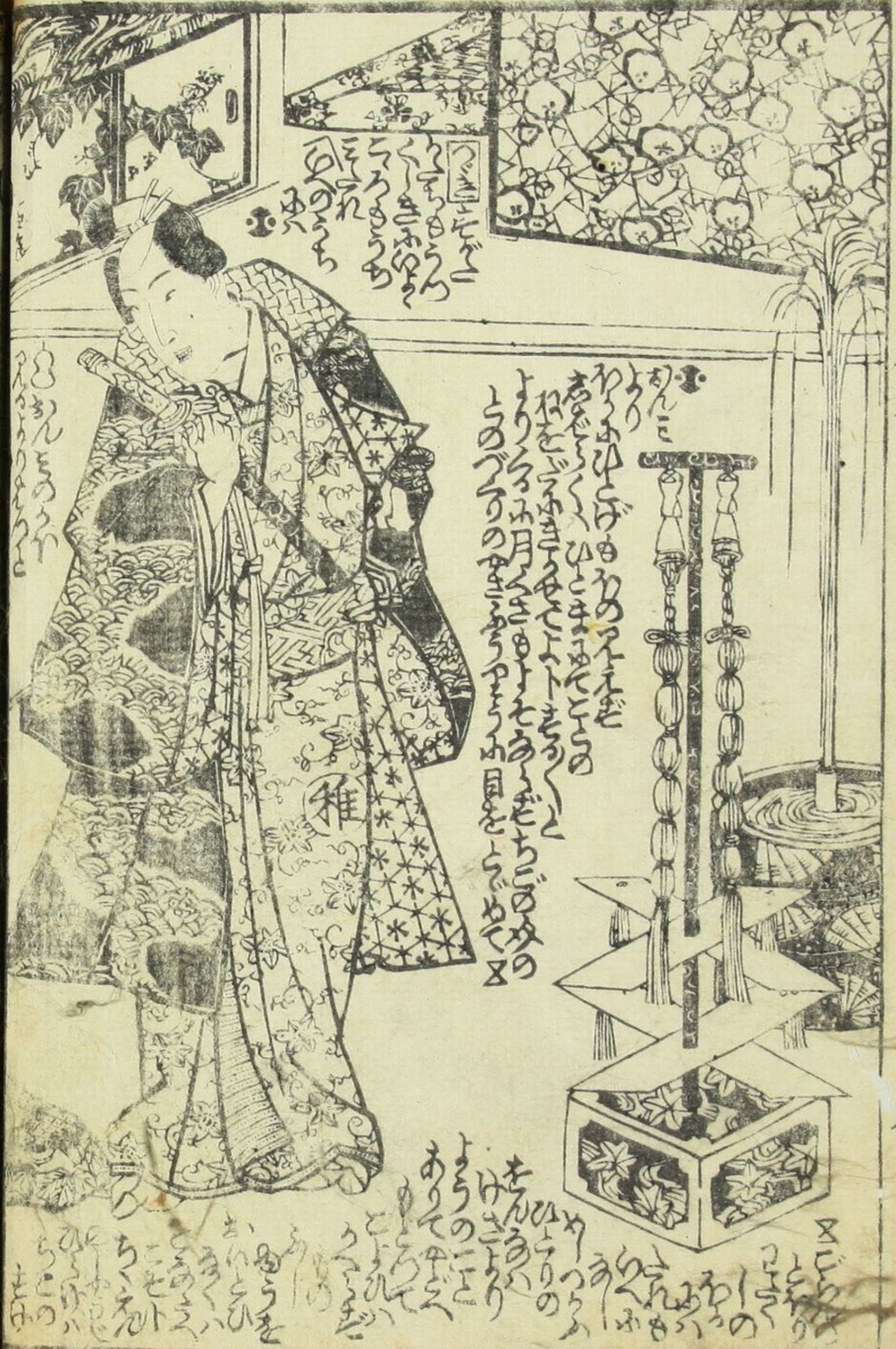
Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration. The text is written in a cursive style and occupies the upper portion of the left page.



Handwritten text in vertical columns, continuing the narrative or commentary from the left page. The text is written in a cursive style and occupies the lower portion of the right page.

Small vertical text or signature located on the right edge of the page.









Handwritten Japanese text on the left page, including vertical columns of characters and a decorative hanging ornament.

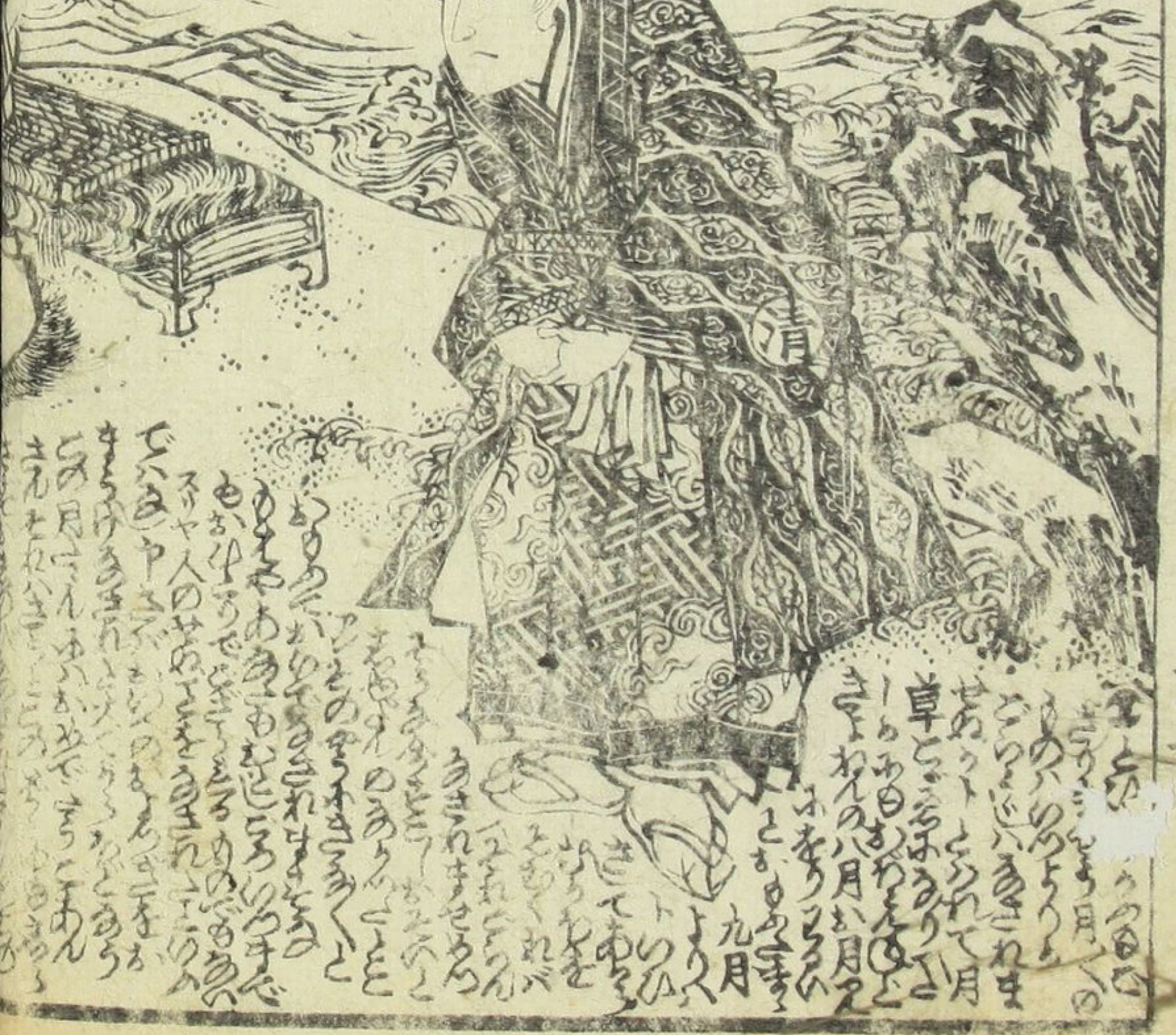


赤革衣

Handwritten Japanese text on the right page, including vertical columns of characters and a decorative hanging ornament.



日月草ハ... 草ノ...



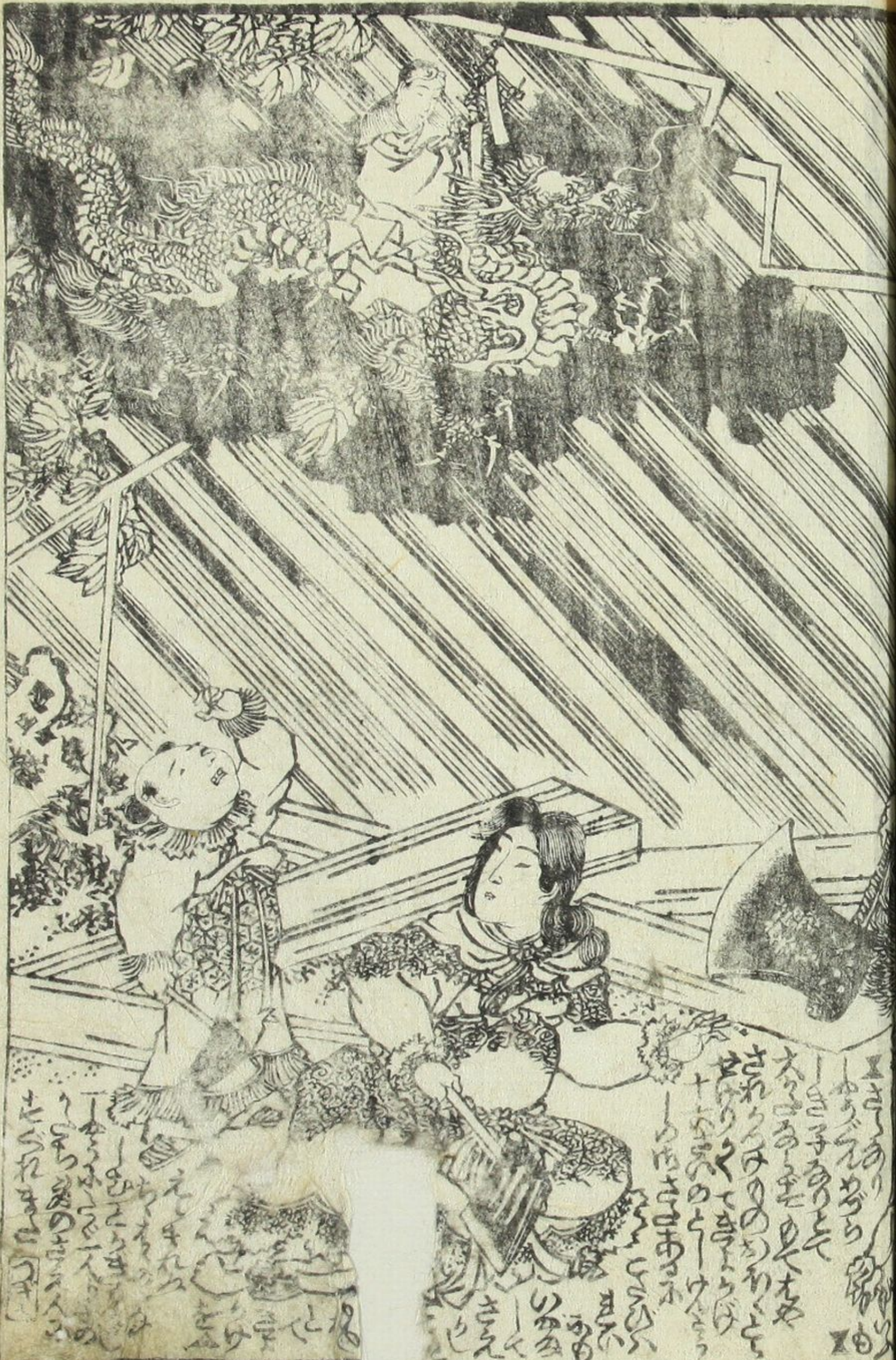
草ノ...

日月草... 草ノ...



草ノ...

○山崎の町にやうきの人ありて其のまはりの山  
をめぐりておもしろき事ありけりこれ  
は山崎の町にやうきの人ありて其のま  
はりの山をめぐりておもしろき事あり  
けりこれには山崎の町にやうきの人  
ありて其のまはりの山をめぐりて  
おもしろき事ありけり



新又切

三木ののりまき...  
あまのこゝろをあらたに  
さすべしとてまはら  
たのふちとてまはら  
たのふちとてまはら  
たのふちとてまはら  
たのふちとてまはら

三人ののりまきを...  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち



天若みこ

あまのこゝろをあらたに...  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち



天若みこ



あまのこゝろをあらたに...  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち

天若みこ

あまのこゝろをあらたに...  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち

あまのこゝろをあらたに...  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち  
そのまはらたのふち

七人の  
天女  
英女  
和風  
を  
とる

新撰



四



新撰



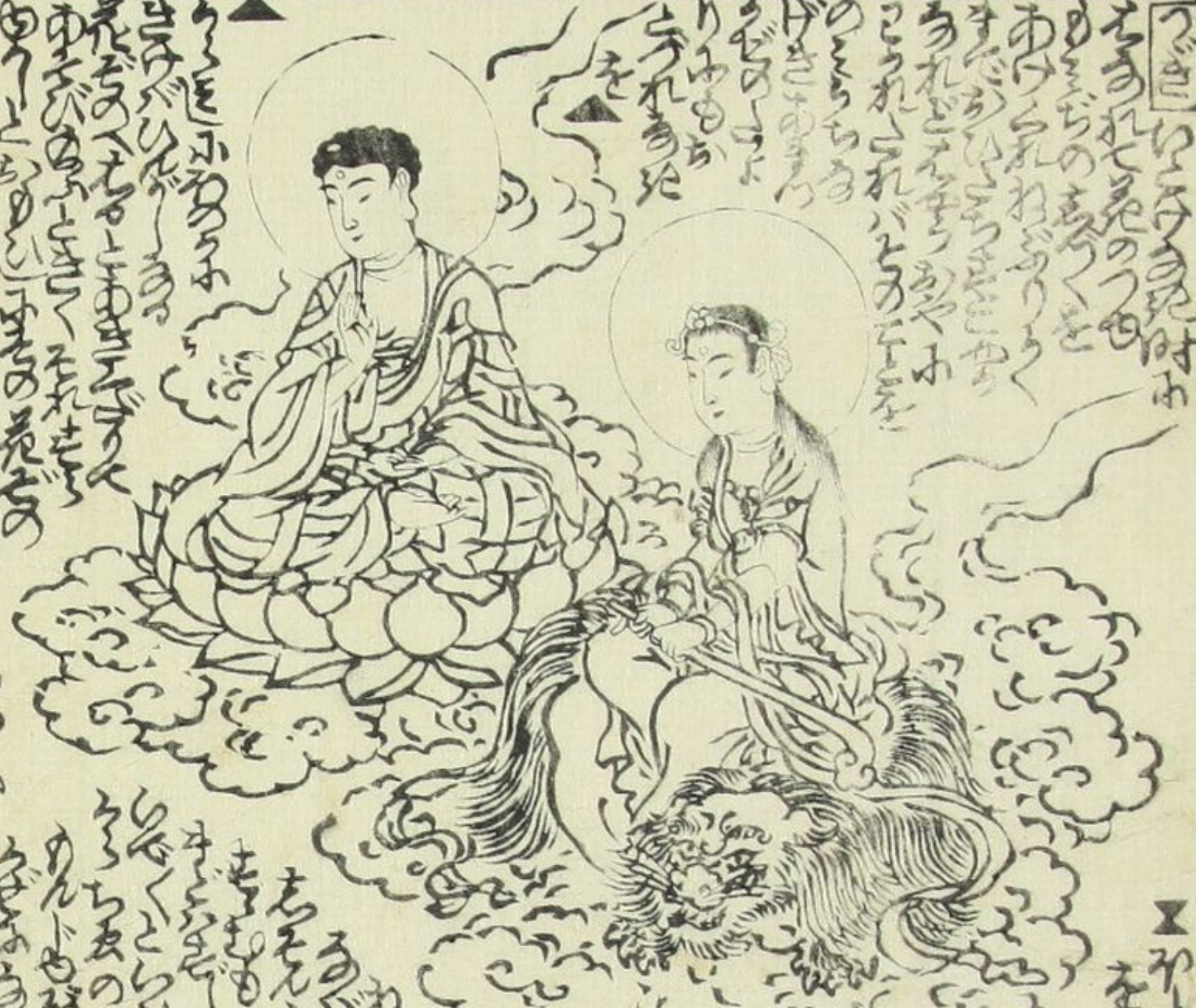
清のついでに... 清のついでに...



清のついでに... 清のついでに...

清のついでに... 清のついでに...

新華初



ついでにひさぎの足跡  
をたづねて見ると  
あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

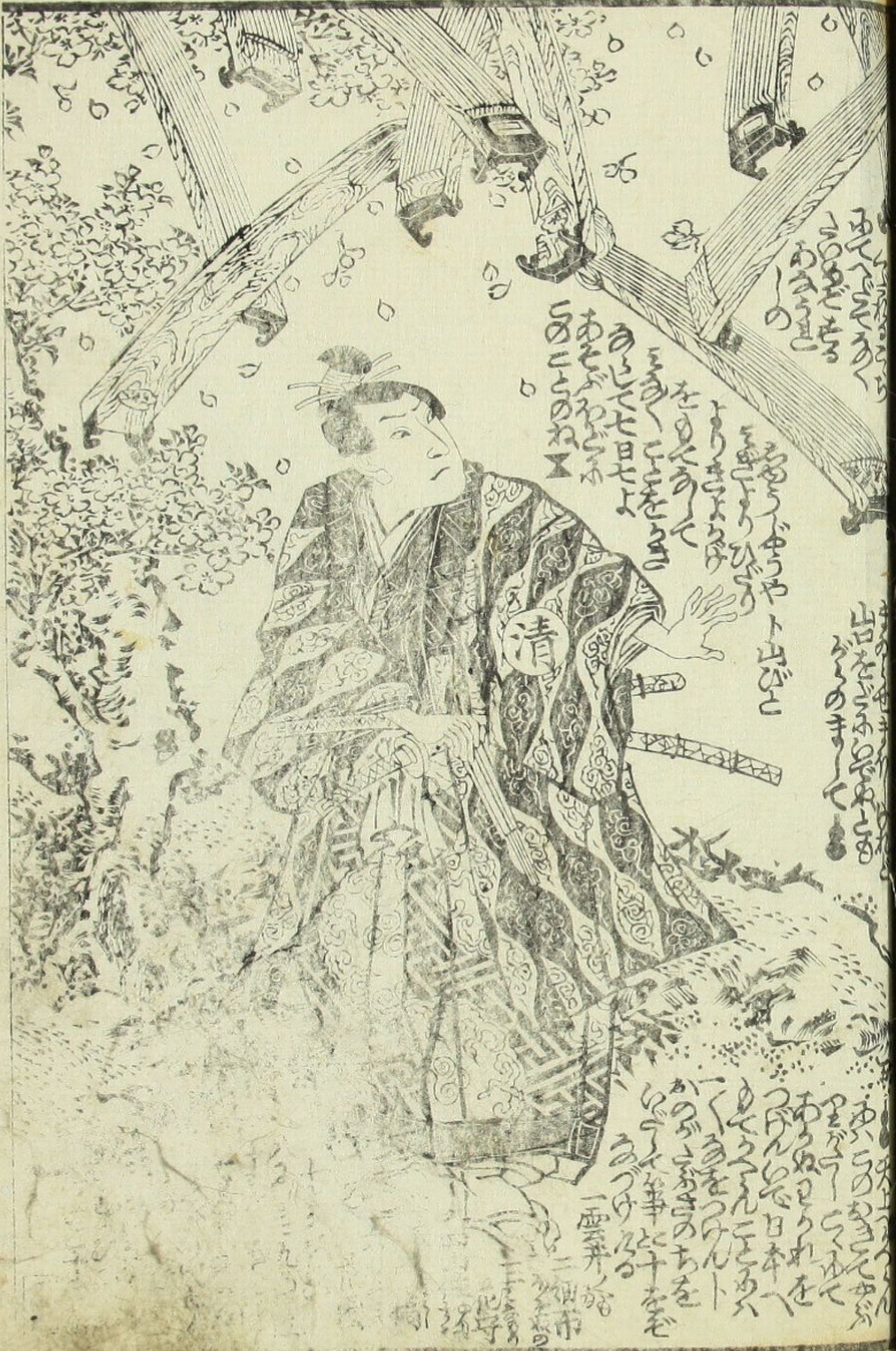
あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

ふたりのまはくさ  
をたづねて見ると  
あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き



新華初

あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

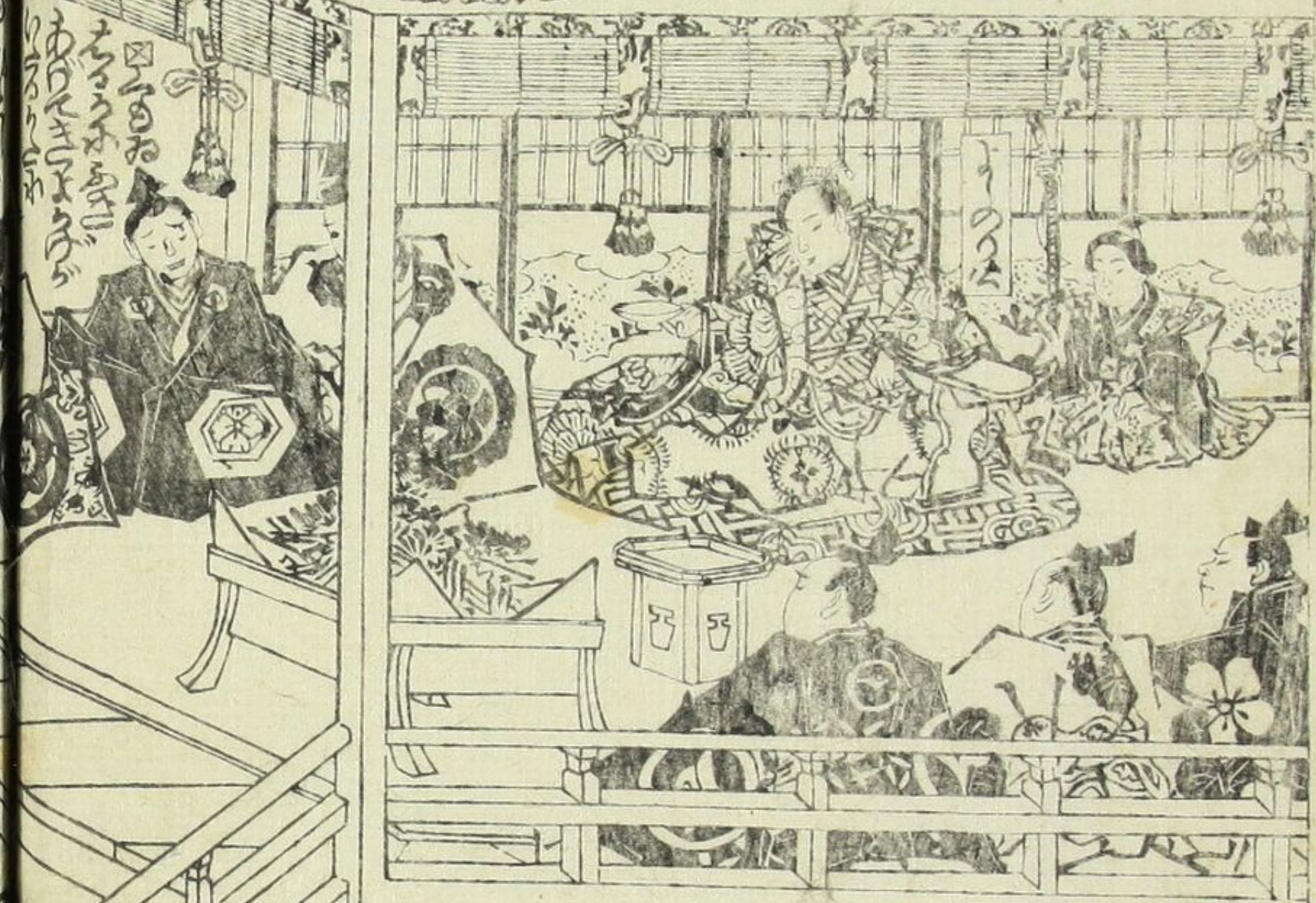
あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

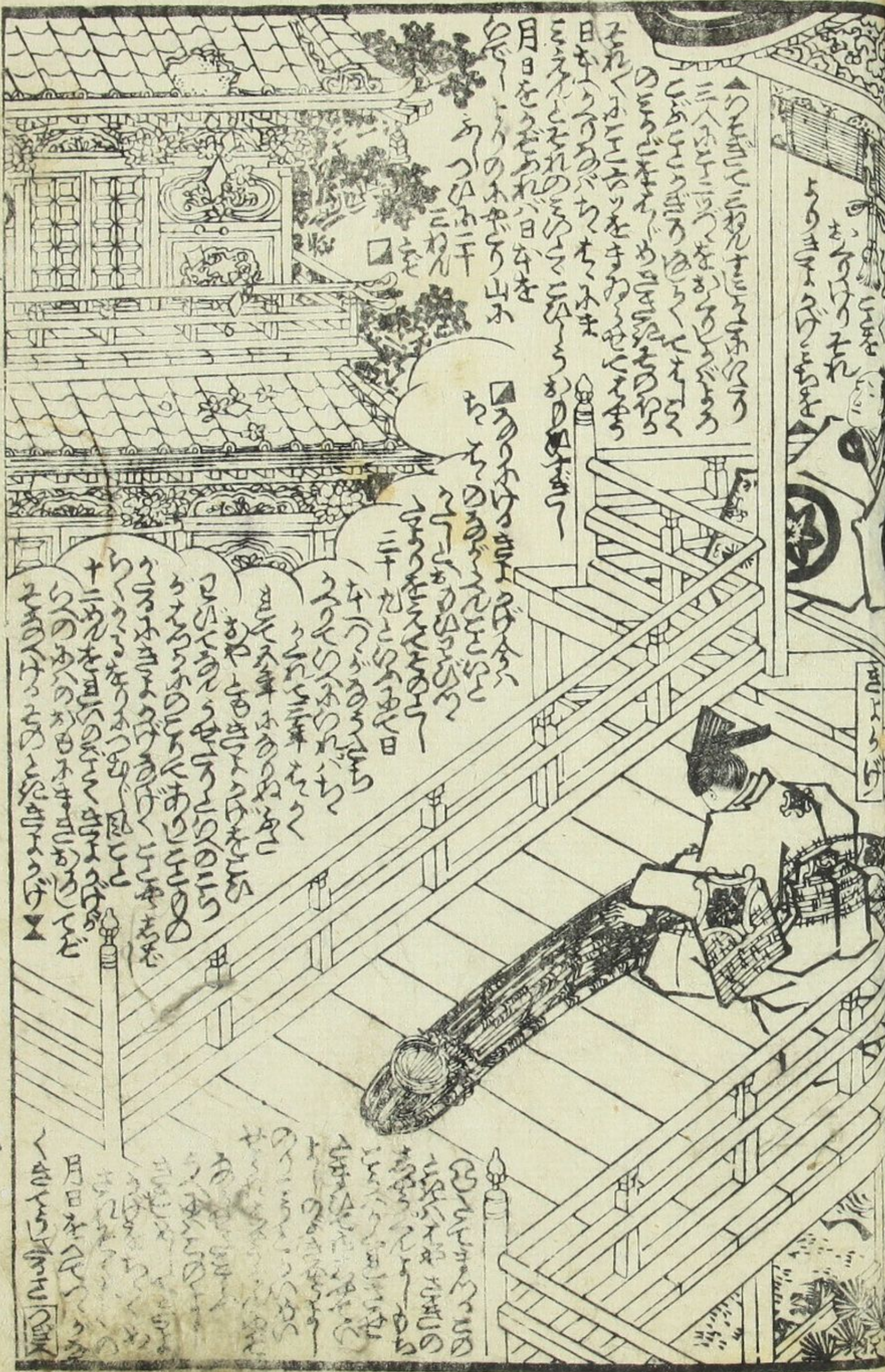
あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

あつちのまはくさ  
すかきひらぬまはら  
ちれどなまきりあやみ  
こられこれいかにてま  
ひきりあや  
りやもち  
たれちた  
き

つれづれと  
あはれなる  
おとこを  
みれば  
あはれなる  
おとこを  
みれば



あはれなる  
おとこを  
みれば  
あはれなる  
おとこを  
みれば  
あはれなる  
おとこを  
みれば



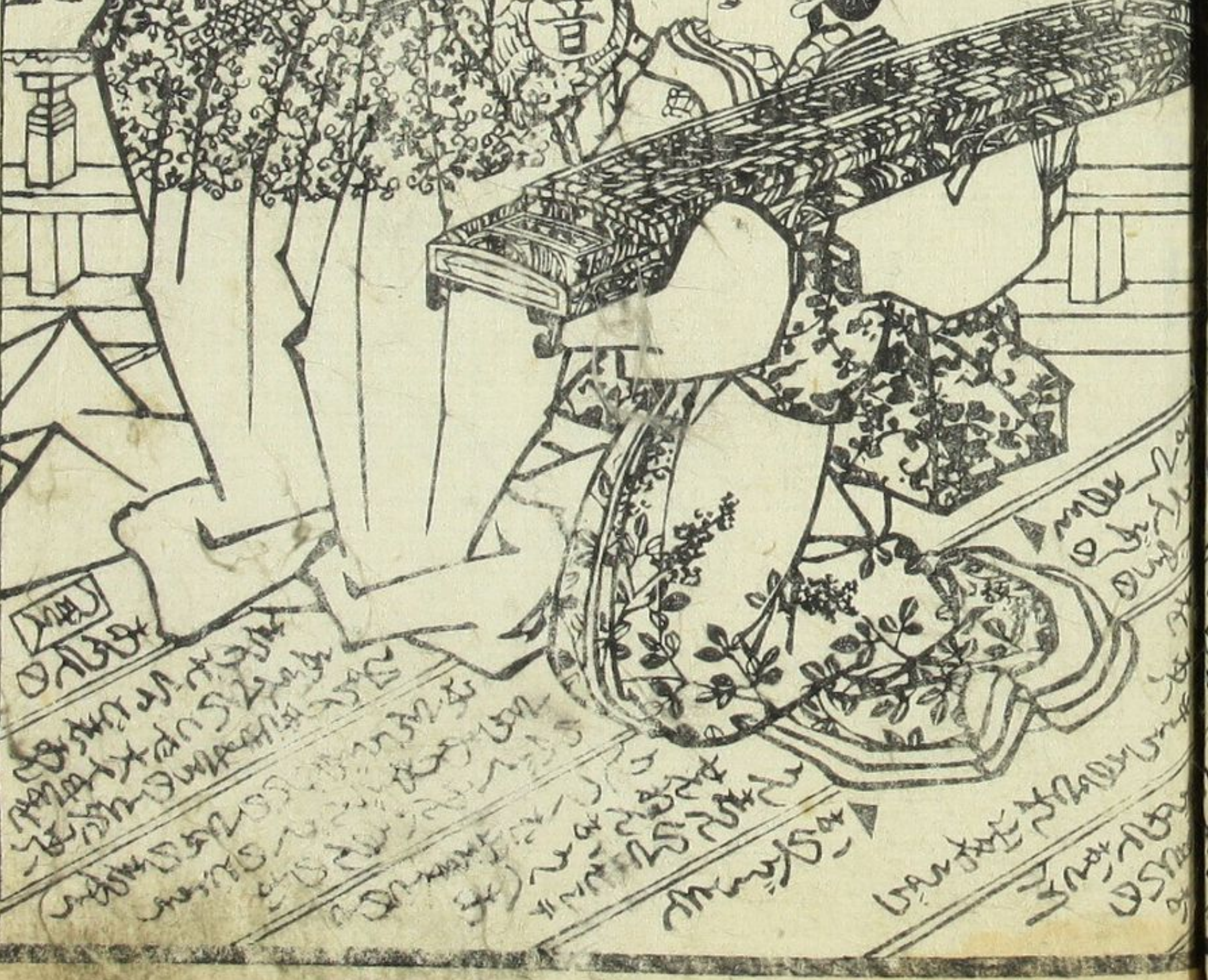
あはれなる  
おとこを  
みれば  
あはれなる  
おとこを  
みれば  
あはれなる  
おとこを  
みれば  
あはれなる  
おとこを  
みれば

あはれなる  
おとこを  
みれば  
あはれなる  
おとこを  
みれば  
あはれなる  
おとこを  
みれば

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, located at the top of the right page.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a play script, located at the top of the left page.





一陽齋豊國画



一世の浮氏のみを以て人かきをえりけるをこそ  
 そのそよよ女かひらひらする世のいさ

後陰巻

新鞍田舎物語第二編自序

空物語ハそのし書書よりあつた故小女の視をえりてをりて世にわたりて  
 の傳ふその物語文ハ中古の頃より。女の昔ころんぶぶのものとせし  
 めるのいかにあつたあり。蓋此物語の作者を藤原為時朝臣藤原為時めりて  
 説ハ源氏物語ハ此物語を拠りて作りしと思はるるべし。そのよ  
 空玉琴空玉琴小毒小説とす。先その二をいし源氏物語の堂の巻ハ空  
 物語の初秋巻をかぞり。彼僧合巻ハ是藏閑巻を拠りて。二樓上  
 巻ハ大宮の童ども翠簾のりて小飛く小飛く蝶をとりんと立中ひて。前  
 翠簾を風の吹わけをも知らざり事を彼物語ありかた。事  
 志る類ひ奉て算算ハ加之二人のうらるる事を二人の事とす  
 人三人の事を一人の事とす。男を女小くしつるあの上の作意と  
 りて。これハ此新鞍田舎物語も女中方の御見物を頼ゆと世話

新又二



ろうてハ書クミされど原末雄ハシノくハ筆癖フデクセの世ヨ小おととんセンと千辛セン百  
 苦源氏クゲンシを手本テモト小吾コゴもまマ二入ニイリのうウを一段イチダン小兼帯コカンタイさサまマのノそ  
 ろロで男小女オトコメの加役カヤクを富無人トモナシ戯場ウタバを牽強ケンキョウて早幕ハヤマクの早作ハヤサク解トクせ  
 せセのノ書拔カキヒキをヲとトまマ師匠シシヤウ匠シヤウハ先達サキダチて只千一シチセンイチの當振オウヂあアれレバ彼段カノダンの  
 雅言ヤコトハ此幕コノマクの田舎言タノケコト小あコらラぬヌあんンどド見功者ミコトシヤの半畳ハニタマを打  
 込ウチたまマふフあア。

嘉永二酉春發市

十返舎一九記

敬

斤又二

おたけ

あつたふ擬  
月草一子  
光二



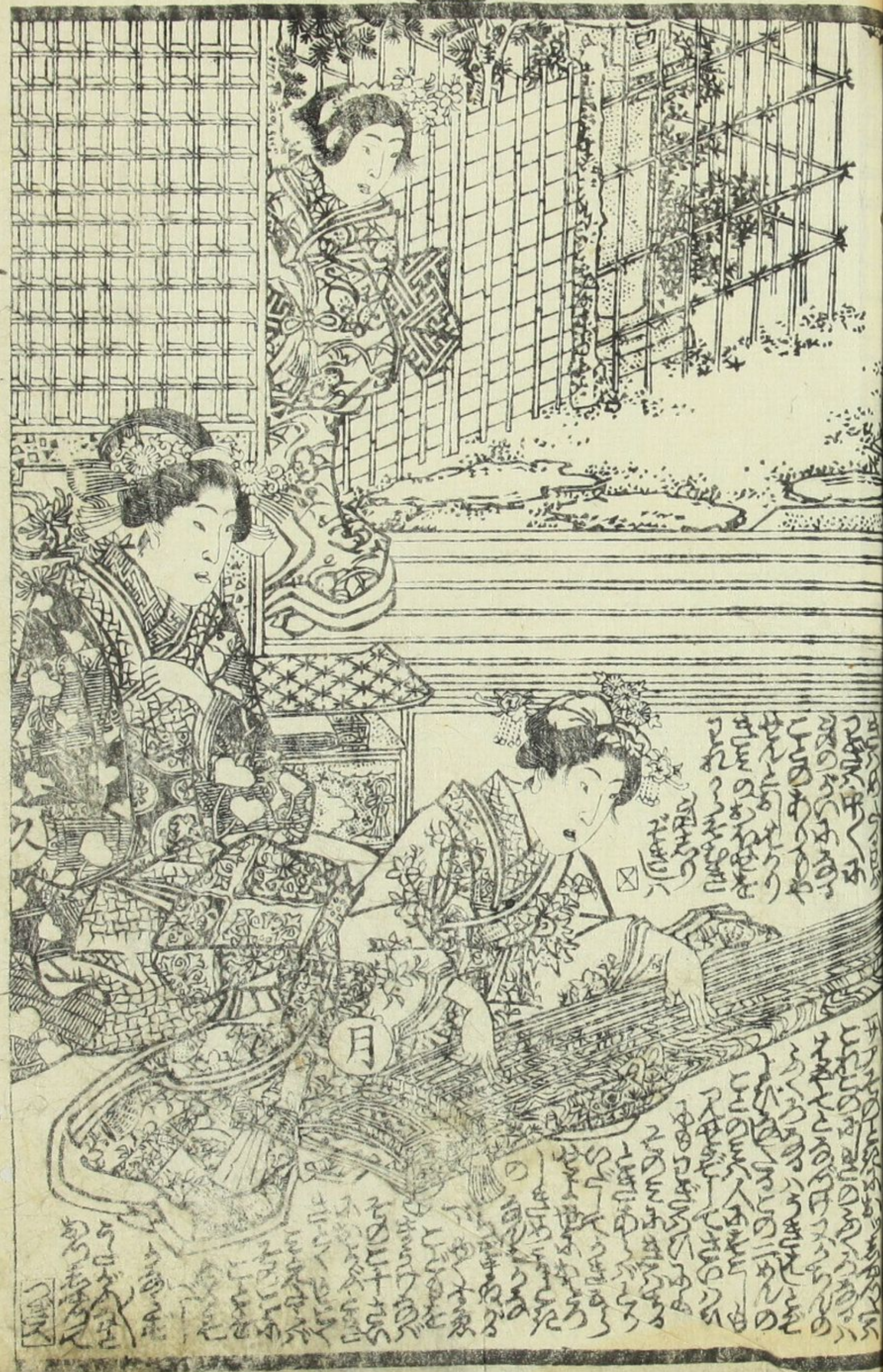
月草後  
京の方



ちこのすけ  
雅子之助兼正







新  
奴  
二

月



新  
奴  
二

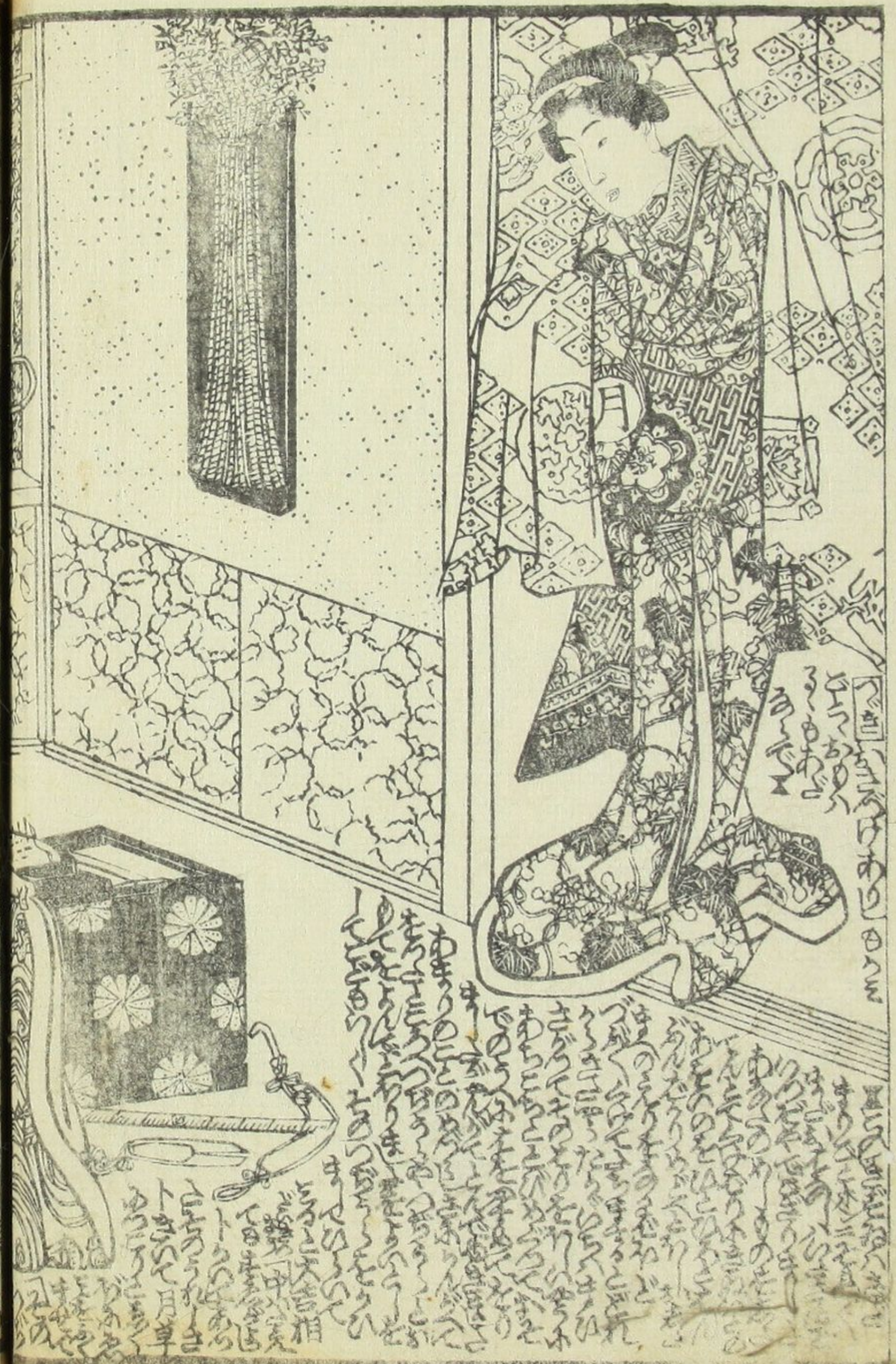
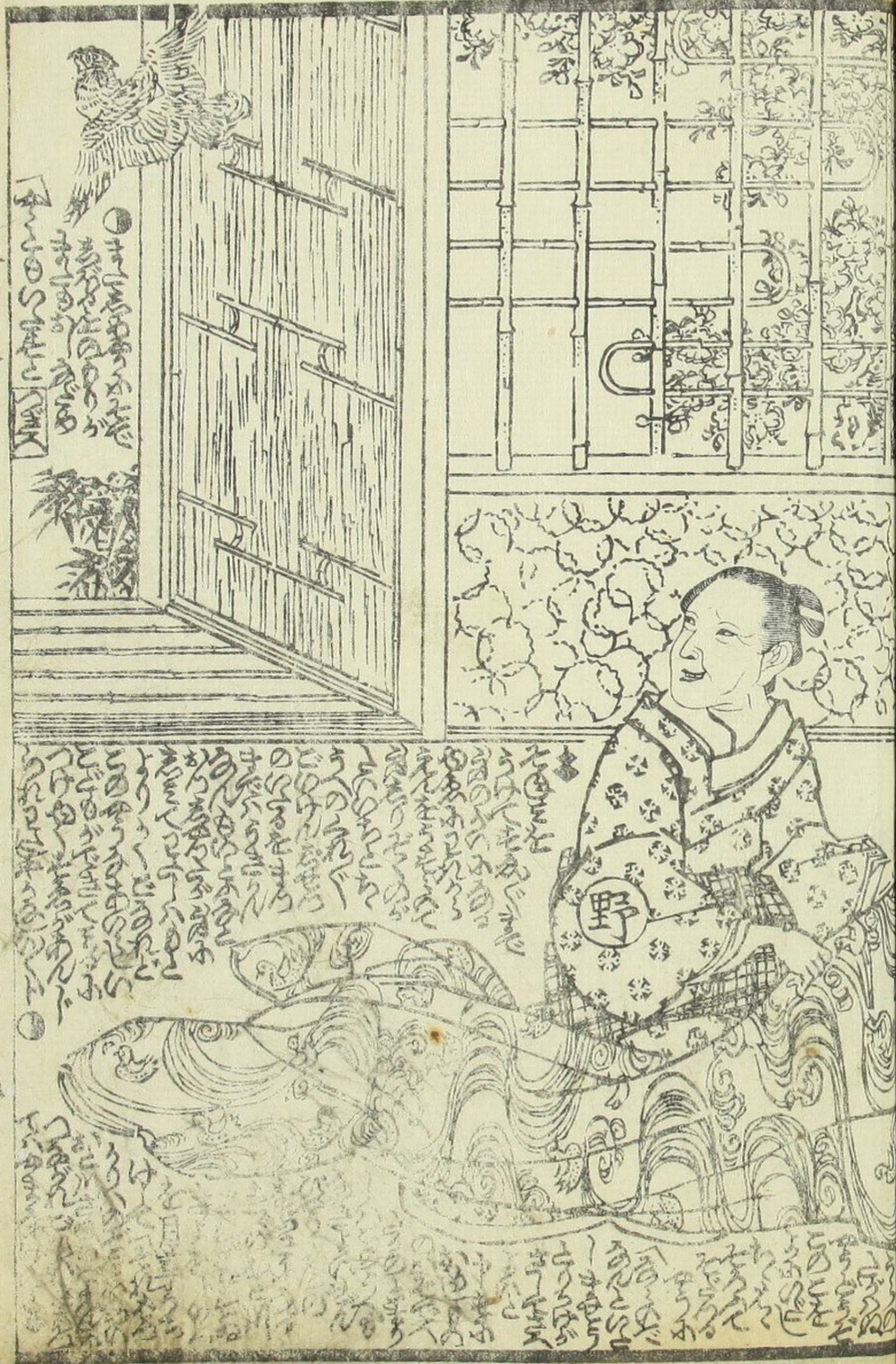
清

五

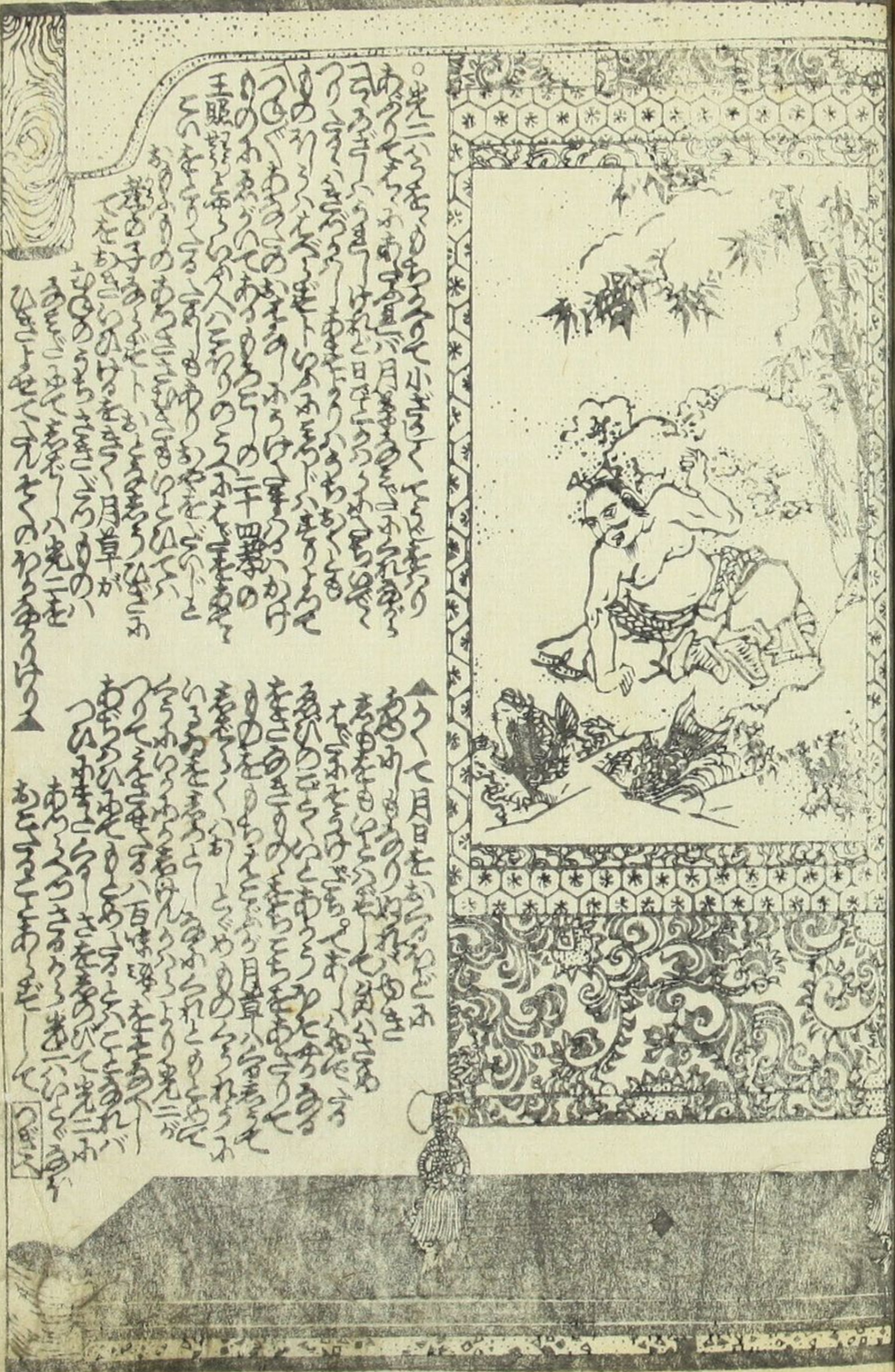








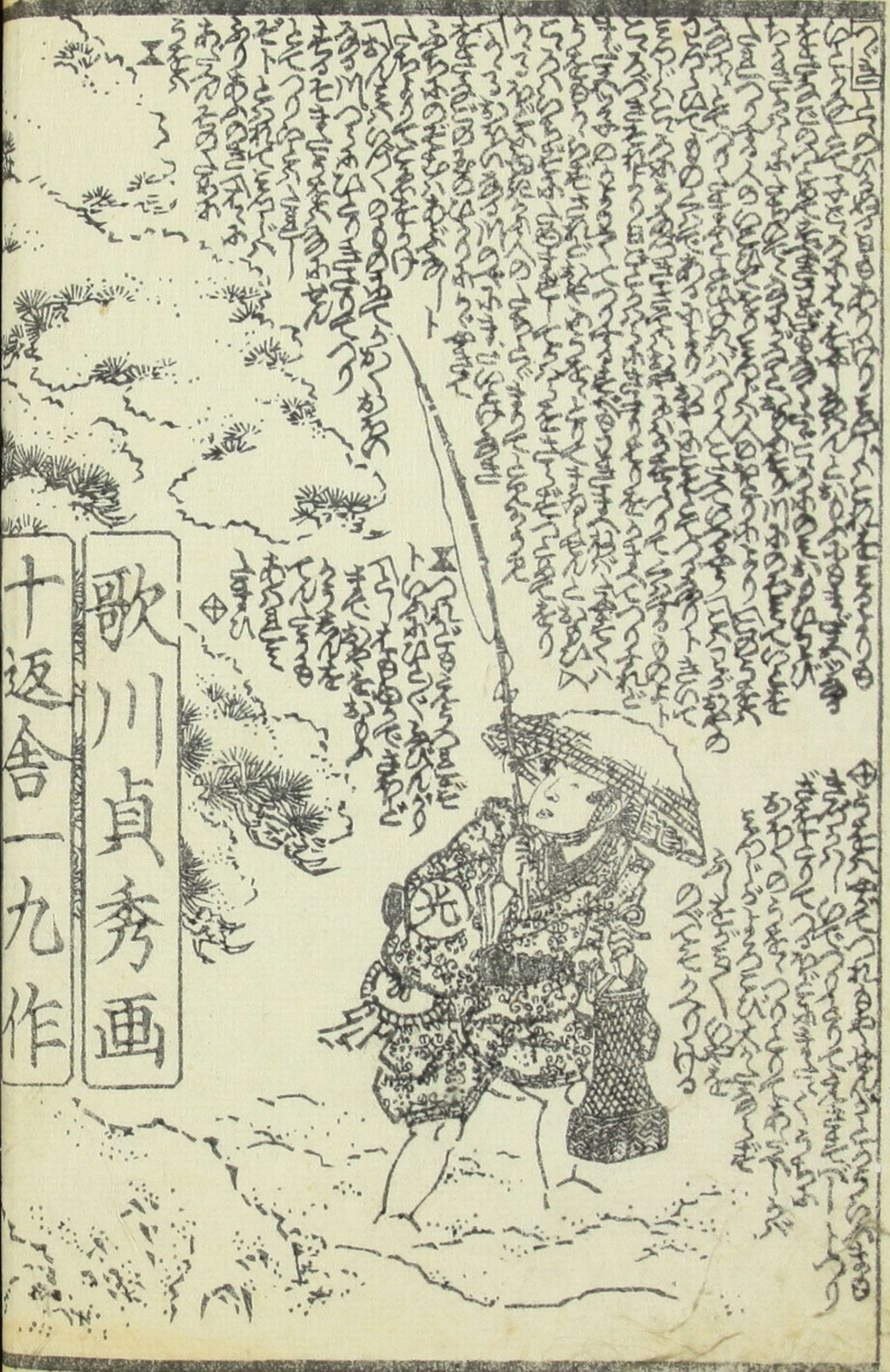




五世  
 ○此は...  
 王  
 三  
 月  
 草  
 二  
 三

○此は...  
 王  
 三  
 月  
 草  
 二  
 三

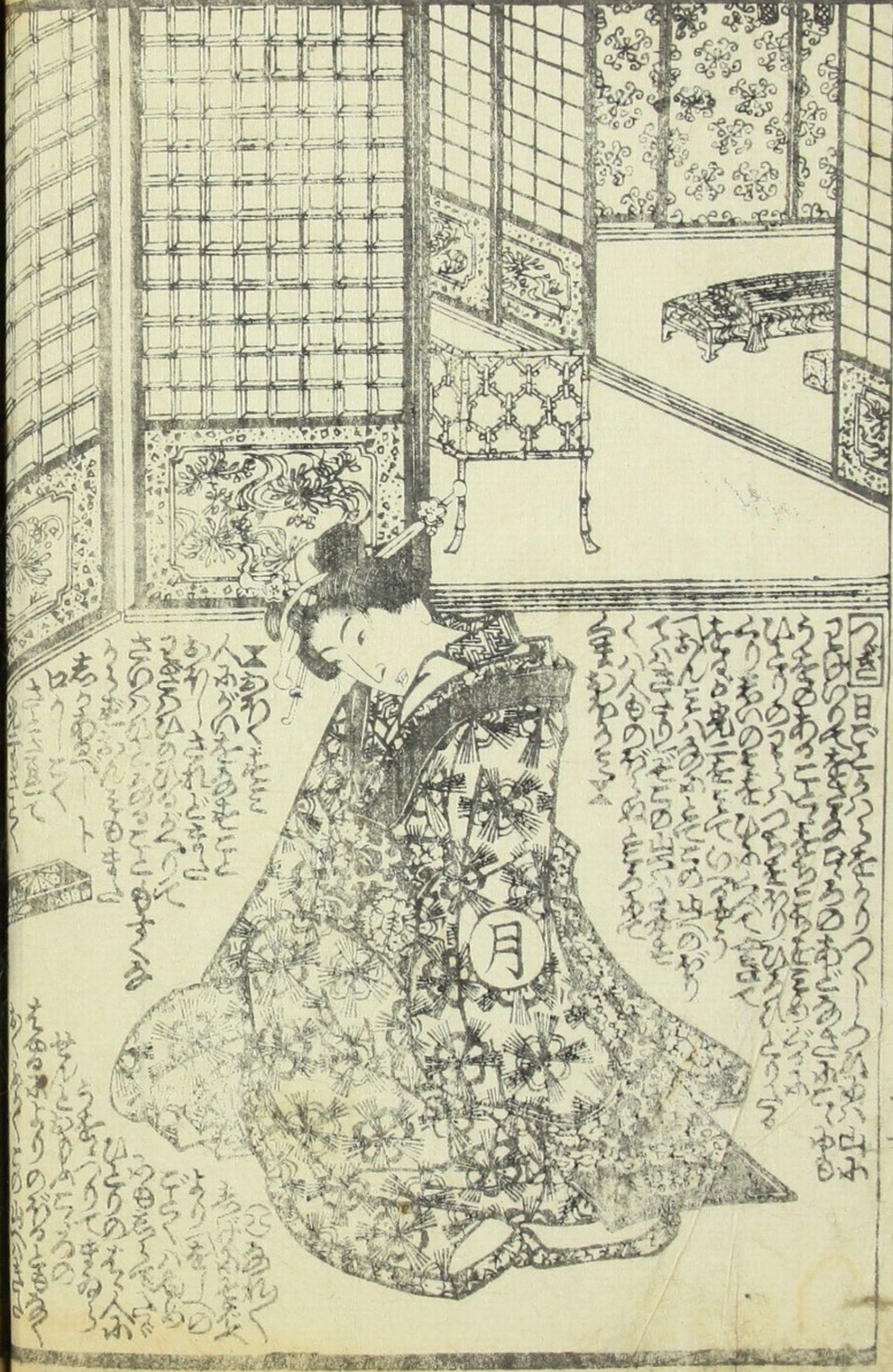
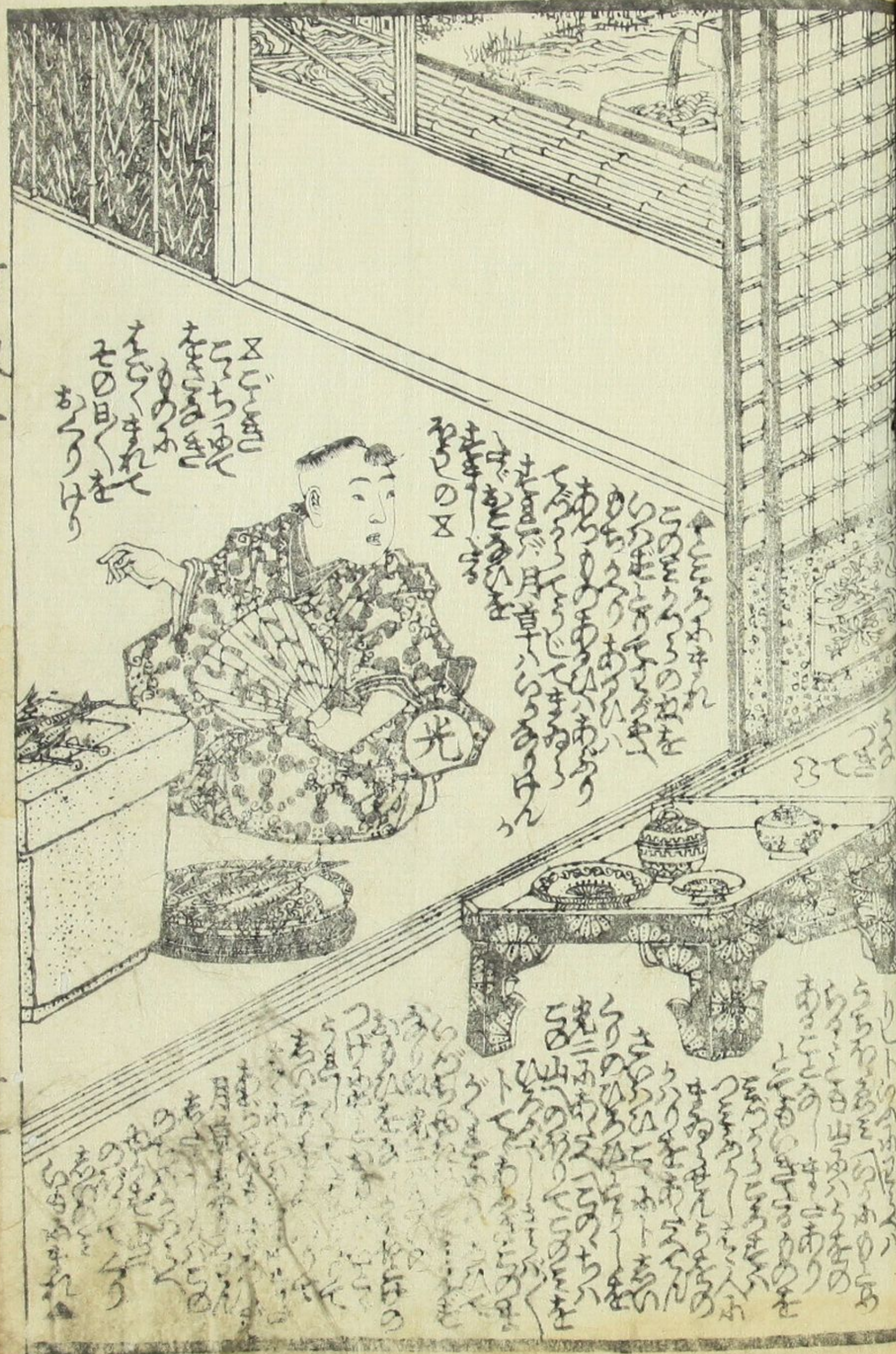
歌川貞秀画  
 十返舎一九作



十返舎一九

○此は...  
 王  
 三  
 月  
 草  
 二  
 三

○此は...  
 王  
 三  
 月  
 草  
 二  
 三



丁 辰 二

十一

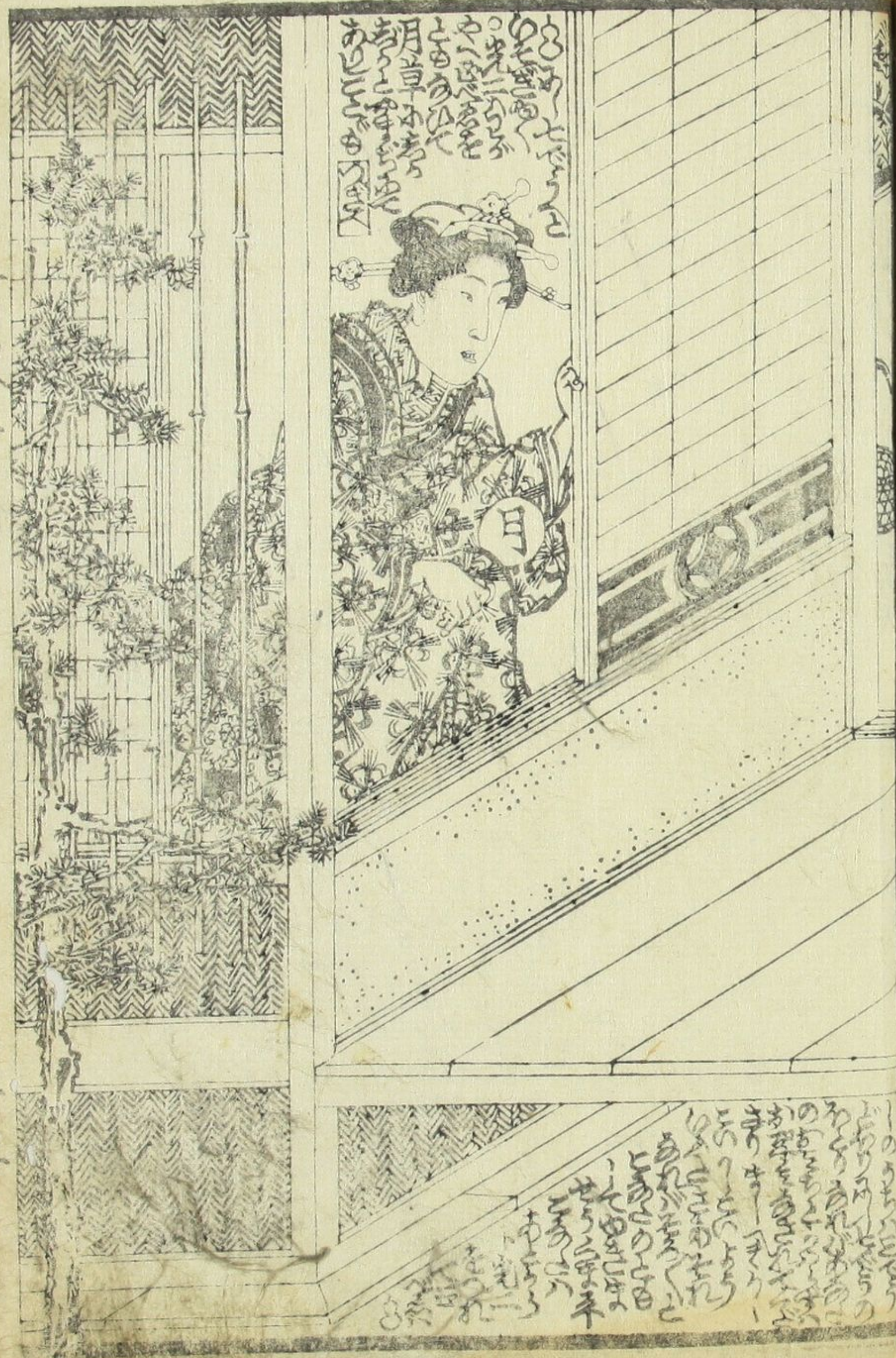


Handwritten Japanese text (kuzushiji) integrated into the illustration, including a circular seal with a character.



Handwritten Japanese text (kuzushiji) integrated into the illustration, including a circular seal.





此の茶葉は、昔の茶葉よりも、  
 味は苦く、香りは弱く、  
 色は黄ばんで、  
 葉は硬く、  
 茶葉の品質は、  
 昔の茶葉よりも、  
 劣る。

此の茶葉は、昔の茶葉よりも、  
 味は苦く、香りは弱く、  
 色は黄ばんで、  
 葉は硬く、  
 茶葉の品質は、  
 昔の茶葉よりも、  
 劣る。

此の茶葉は、昔の茶葉よりも、  
 味は苦く、香りは弱く、  
 色は黄ばんで、  
 葉は硬く、  
 茶葉の品質は、  
 昔の茶葉よりも、  
 劣る。



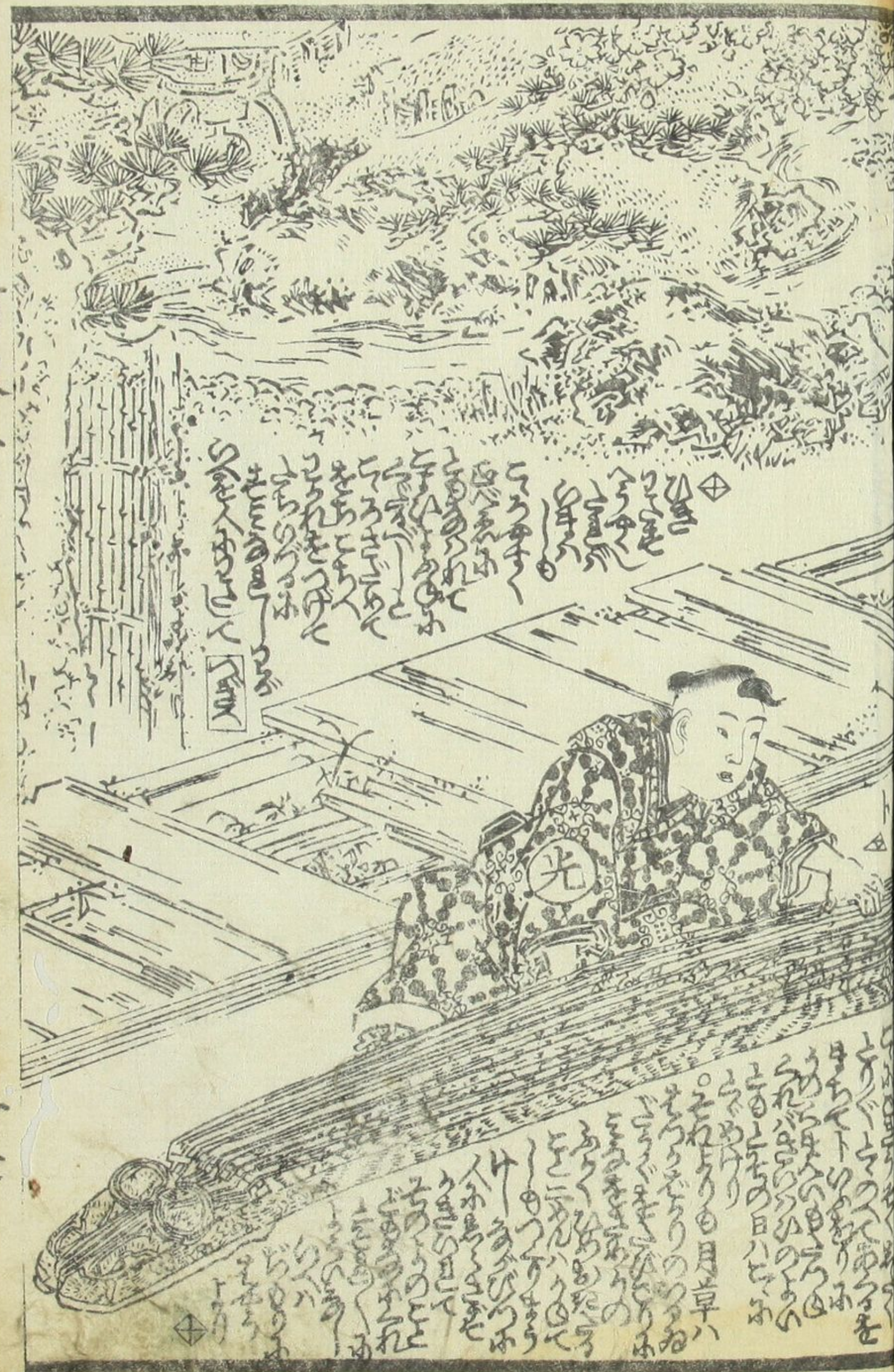
此の茶葉は、昔の茶葉よりも、  
 味は苦く、香りは弱く、  
 色は黄ばんで、  
 葉は硬く、  
 茶葉の品質は、  
 昔の茶葉よりも、  
 劣る。

此の茶葉は、昔の茶葉よりも、  
 味は苦く、香りは弱く、  
 色は黄ばんで、  
 葉は硬く、  
 茶葉の品質は、  
 昔の茶葉よりも、  
 劣る。

此の茶葉は、昔の茶葉よりも、  
 味は苦く、香りは弱く、  
 色は黄ばんで、  
 葉は硬く、  
 茶葉の品質は、  
 昔の茶葉よりも、  
 劣る。







新華一

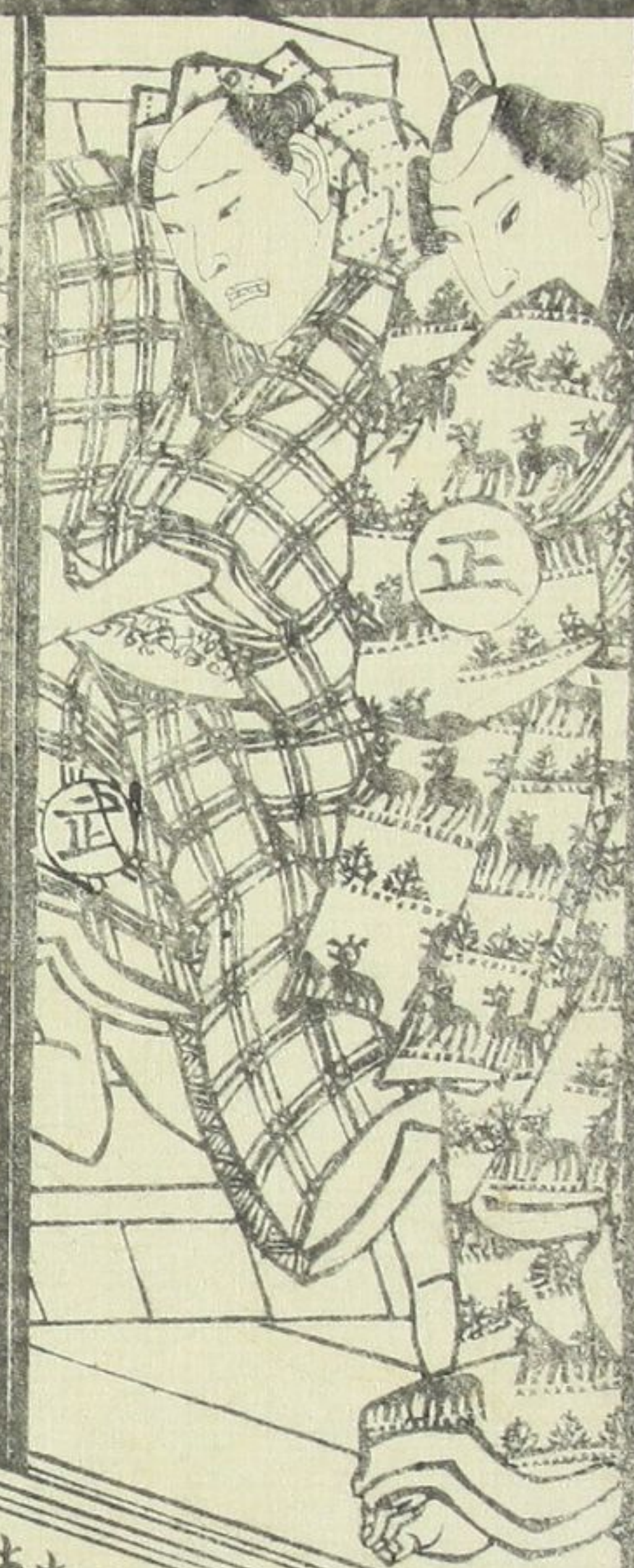
一  
二

一  
二





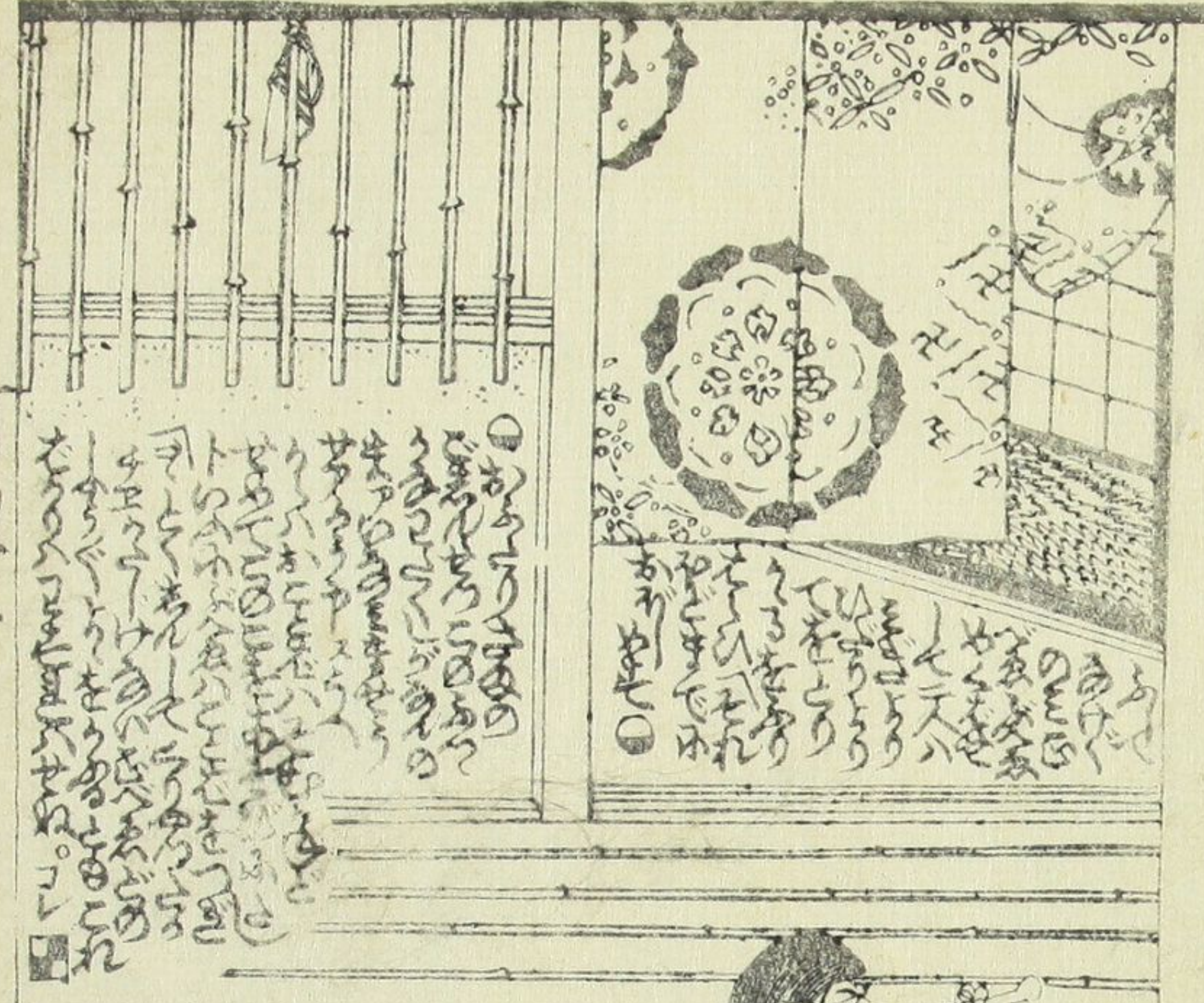
ついでに小  
るひをそと  
ろくろつり  
りたれ月草  
おれ光二  
せんあまひ



△月草の  
ついでに小  
るひをそと  
ろくろつり  
りたれ月草  
おれ光二  
せんあまひ

△月草の  
ついでに小  
るひをそと  
ろくろつり  
りたれ月草  
おれ光二  
せんあまひ

△月草の  
ついでに小  
るひをそと  
ろくろつり  
りたれ月草  
おれ光二  
せんあまひ



△月草の  
ついでに小  
るひをそと  
ろくろつり  
りたれ月草  
おれ光二  
せんあまひ



△月草の  
ついでに小  
るひをそと  
ろくろつり  
りたれ月草  
おれ光二  
せんあまひ



ついでに...  
この目録...  
空物語の...  
櫻落葉...  
今年と草稿...  
めじるる...  
と定...  
それを漸幕...

後藤巻  
その目録...  
空物語...  
櫻落葉...  
今年と草稿...  
めじるる...  
と定...  
それを漸幕...



歌川貞秀画 十返舎一九作

新撰田舎物語第三編自序

空物語の乱...  
この巻の序の前後...  
櫻落葉...  
今年と草稿...  
めじるる...  
と定...  
それを漸幕...

嘉永三戌春新版

十返舎一九誌



越鳥茶  
 正  
 貴八郎  
 太郎



新六帖

心置の

秋ふきこゑよ

鳴猿の音そ

涙のかささらりける

衣笠内大臣

月  
草

華  
二



上は某の  
 名を  
 改む  
 其の  
 後  
 上七

京方の  
 侍女



光二改名  
 仲正と云

月草の  
しるしの  
ののち  
ののち  
ののち  
ののち



月草の  
しるしの  
ののち  
ののち  
ののち  
ののち

月草の  
しるしの  
ののち  
ののち  
ののち  
ののち



月草の  
しるしの  
ののち  
ののち  
ののち  
ののち

月草の  
しるしの  
ののち  
ののち  
ののち  
ののち









音川家... 桂之助...  
 音川家... 桂之助...  
 音川家... 桂之助...



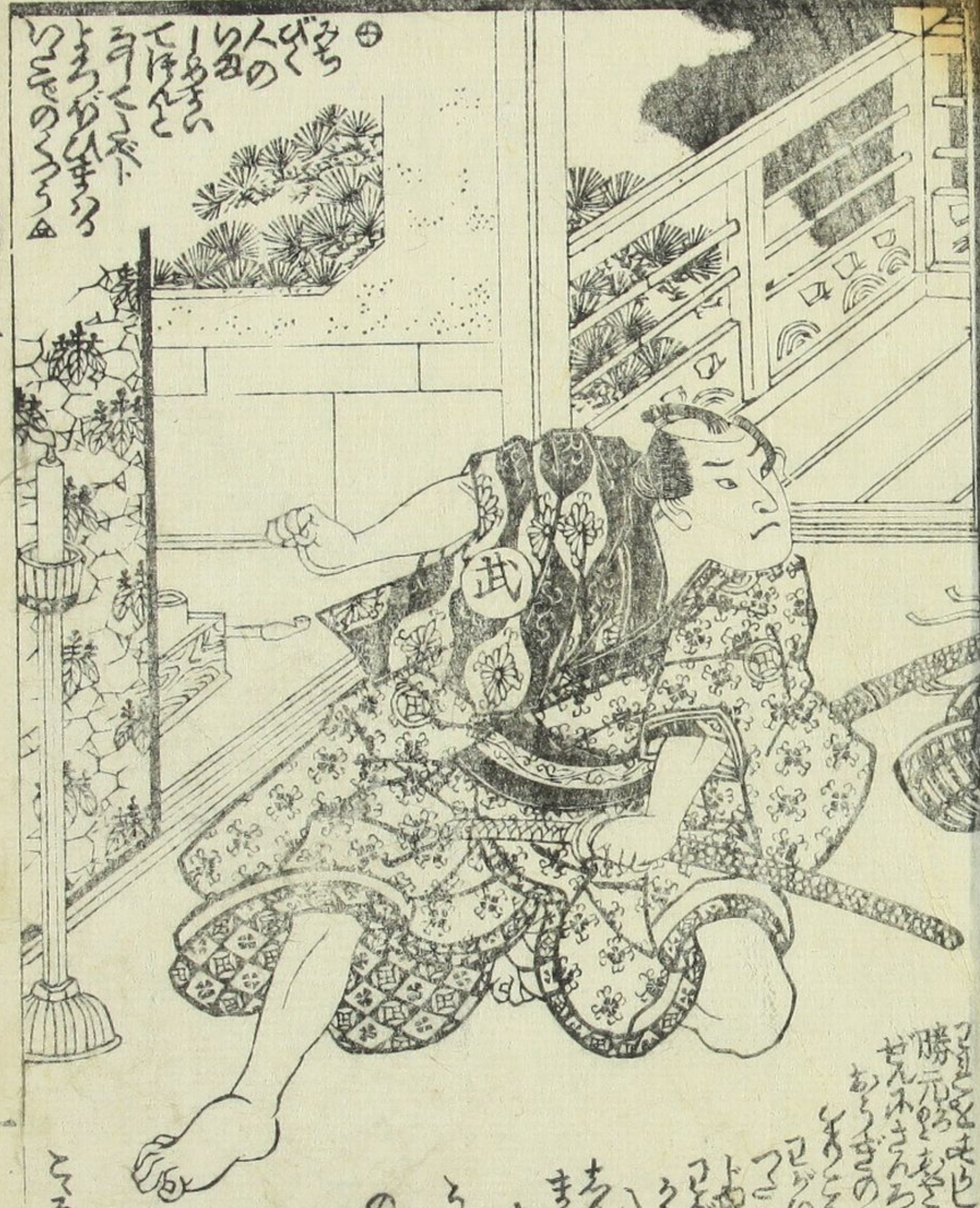
音川家... 桂之助...  
 音川家... 桂之助...  
 音川家... 桂之助...

音川家... 桂之助...  
 音川家... 桂之助...  
 音川家... 桂之助...



音川家... 桂之助...  
 音川家... 桂之助...  
 音川家... 桂之助...





① 武蔵の  
 名士の  
 一人の  
 武蔵の  
 名士の  
 一人の

武蔵の  
 名士の  
 一人の  
 武蔵の  
 名士の  
 一人の



② 武蔵の  
 名士の  
 一人の  
 武蔵の  
 名士の  
 一人の

武蔵の  
 名士の  
 一人の  
 武蔵の  
 名士の  
 一人の

武蔵の  
 名士の  
 一人の  
 武蔵の  
 名士の  
 一人の









あつちの  
ついでに  
あつちの  
ついでに

あつちの  
ついでに  
あつちの  
ついでに



あつちの  
ついでに  
あつちの  
ついでに

あつちの  
ついでに  
あつちの  
ついでに









此の如く... 正の... こと... 正の... こと... 正の... こと...



あつと... せん... せん... せん... せん...

此の如く... 正の... こと... 正の... こと... 正の... こと...



あつと... せん... せん... せん... せん...







嘉永三庚戌春新版目錄

<p>甲越武功傳 全二冊 一猛齋芳虎画</p>	<p>古今草紙合三編四編 一雄齋國輝画</p>	<p>一名 笠亭仙果鈔錄 雪梅芳譚大の州紙 八編九編十編 一陽齋豐國画</p>	<p>大晦日曙草紙十五十六編 一陽齋豐國画</p>
<p>地本 板元 萬屋 吉藏</p>	<p>俠客傳 仙摸略說 初編二編三編四編 一雄齋國輝画</p>	<p>新靱田舍物語 三編四編 一雄齋國輝画</p>	<p>御贄美少年始四編五編 一雄齋國輝画</p>

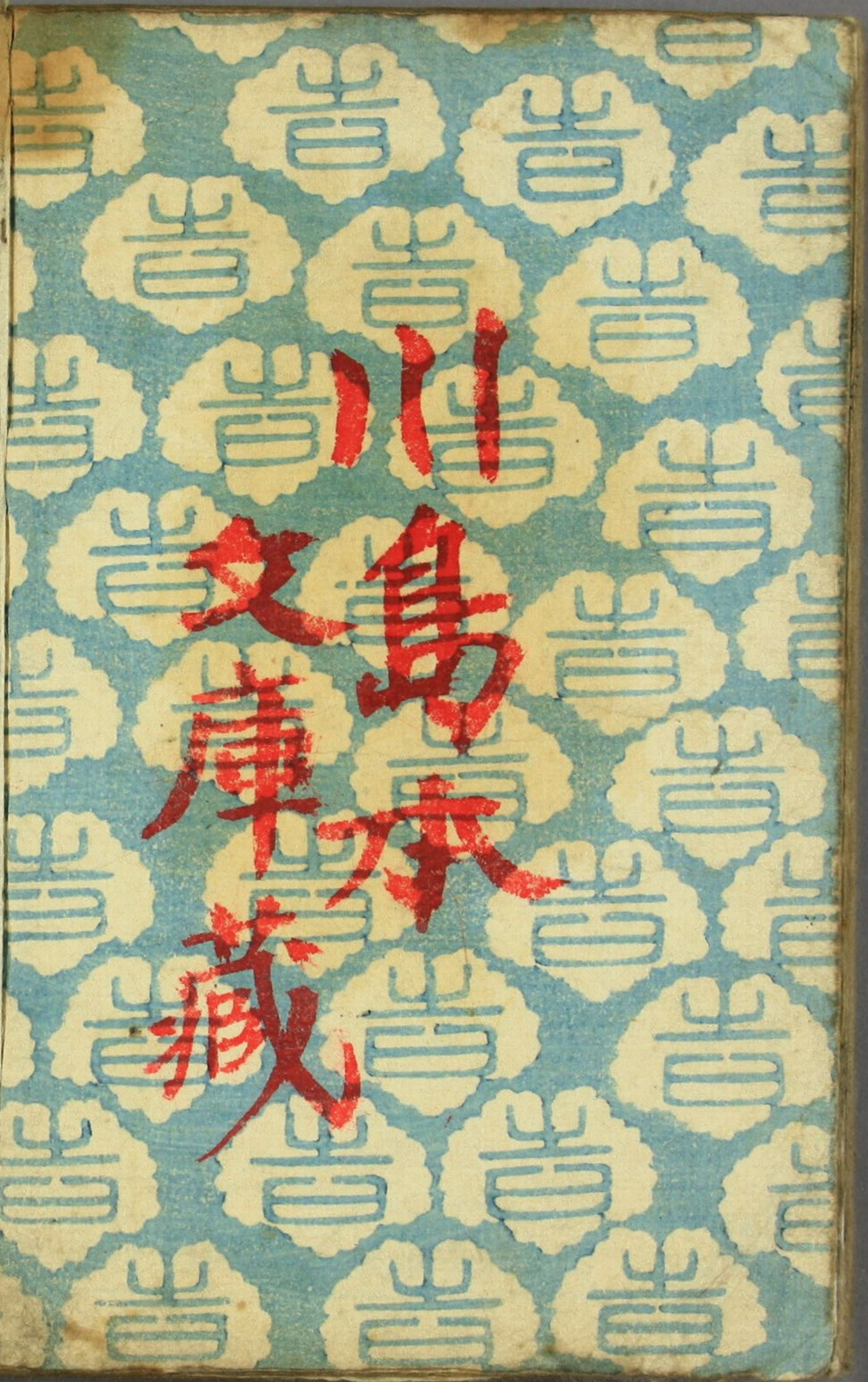


右大將との相模の  
さくら

音川稚子之介兼正  
さくら

十返舎一九

一雄齋國輝画



無<sup>二</sup>の<sup>一</sup>えり  
お<sup>二</sup>ろ<sup>一</sup>い  
と<sup>二</sup>ろ<sup>一</sup>  
ち<sup>二</sup>ろ<sup>一</sup>

世<sup>二</sup>の<sup>一</sup>流  
お<sup>二</sup>ろ<sup>一</sup>い  
と<sup>二</sup>ろ<sup>一</sup>  
ち<sup>二</sup>ろ<sup>一</sup>

八<sup>二</sup>文<sup>一</sup>

地本  
板元  
錦繪

中<sup>二</sup>の<sup>一</sup>南傳馬町一丁目  
紅英堂  
葛屋吉藏

けいふ奉る品々

清葉  
白芙蓉  
一色三十六文

日向  
曙  
富士  
一色三十六文

